



### 唐崎松 (からさきのまつ)

13代藩主・齊泰が琵琶湖畔の唐崎から種子を取りよせて実生から育てた黒松で、兼六園の中で最も枝ぶりが見事な松である。11月1日にこの木から作業を始める雪吊りは、北陸に冬の訪れを告げる風物詩となっている。



### 曲水

園内を流れる曲水の豊かな水は、1631年の寛永の大火の翌年、3代藩主・利常の命により町人板屋兵四郎が、城の「防火用水」としてつくった辰巳用水を利用している。両岸には桜が植えられ、4月の開花時には杜若の若緑とともに美しい景観を楽しめる。



### 根上松 (ねあがりのまつ)

大小40数本もの根が地上2mにまでせり上がった奇観はたいへんな迫力で、兼六園名物の一つとなっている。この松は、13代藩主・齊泰が土を盛り上げて若松を植え、根を深く土で覆い、成長後に土をのぞいて根をあらわにしたものだといわれている。



兼六園菊桜  
花卉の数は300枚を  
超えるのが一番の特徴。



### 夕顔亭 (ゆうがおてい)

園内に現存する最も古い建物で、1774(安永3)年に建てられた茶室である。茶席の次の間の袖壁に夕顔(瓢箪)の透があるので夕顔亭という亭名がつけられている。

### 時雨亭 (しぐれてい)

5代藩主・綱紀がはじめて本園を作庭した頃からあった建物で、蓮池御亭と呼ばれていた。6代藩主・吉徳によって建て替えられ、藩政後期には時雨亭とも呼ばれ、今の噴水の前にあった。明治のはじめに取り壊されたが現在の建物は2000(平成12)年3月にこの地に再現させたものである。



### 花見橋

花見橋から眺める花は見事である。桜、ツツジやカキツバタが花をつける春～初夏の時期が特に美しい。



### 明治紀念之標 (めいじきねんのひょう)

中央に日本武尊像を、左に石川県戦士尽忠碑を据える明治紀念之標は、西南戦争で戦死した郷土軍人の霊を慰めるもので、身長5.5mの銅像は、明治13年(1880)日本で最初に建てられた銅像といわれている。両脇に植えられた赤松は「手向松」と呼ばれ、当時、京都の東西両本願寺の門跡から移されたものである。



### 梅林 (ばいりん)

昭和43年、明治百年記念事業として、北野天満宮や太宰府天満宮、湯島天神、水戸偕楽園などの協力により、全国の名梅を集めて造成された。約20種、200本の梅が植えられており、3月になると紅白の花が美しく咲き誇る。



### 噴水

この噴水は上にある霞ヶ池を水源としており、自然の水圧であがっている。通常、水の高さは約3.5メートルで、霞ヶ池の水位の変化によって変わる。1861(文久元)年、金沢城二の丸の居間先に噴水があがっているが、兼六園の噴水はその試作といわれ、日本最古といわれている噴水である。



### 雁行橋 (がんこうばし)

11枚の赤戸室石を使って雁が列をなして飛んでいる姿に作られているので雁行橋と呼ばれている。また、一枚一枚の石が亀甲の形をしているので別名を亀甲橋ともいう。



## 文化財指定庭園 特別名勝



松平定信筆「兼六園」の扁額  
いしかわ生活工芸ミュージアムにてご覧いただけます。



### 石川県金沢市・兼六園管理事務所

金沢市丸の内1番1号  
TEL (076) 234-3800  
FAX (076) 234-5292

<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/kenrokuen/>



兼六園は江戸時代の代表的な林泉回遊式大名庭園の特徴をそのまま今に残している。

もともと兼六園は金沢城の外郭として城に属した庭であった。

庭としての歴史は、城に面した傾斜地が古い。加賀藩5代藩主・前田綱紀が1676（延宝4）年、この地にあった作事所を城内に移し、蓮池御亭を建て、その周辺を作庭した。これが本園の始まりで、当時、蓮池庭などと呼ばれていた。

1759（宝暦9）年の金沢大火で、蓮池庭も一部焼失、荒廃した。11代藩主・治脩は復興に取り組み、1774（安永3）年に今にみる夕顔亭や翠滝を築造している。

一方、東南の平坦地である千歳台一带は、7人の家臣の屋敷があったり、藩校が建てられるなどの変遷があったが、1822（文政5）年に12代藩主・斉広の豪壮な隠居所「竹沢御殿」が完成している。その庭には辰巳用水を取り入れて曲水をつくり、各種の石橋を架けた。竹沢御殿の完成した年に、中国宋の時代の詩人・李格非の書いた「洛陽名園記」の文中から採って、宏大・幽邃、人力・蒼古、水泉・眺望の六勝を兼ねるという意味で「兼六園」と命名された。

竹沢御殿完成後、わずか2年で斉広は死去した。同御殿を取り壊した13代藩主・斉泰は、霞ヶ池を掘り広げ、曲水の新たな取り入れも行い、以前からあった蓮池庭と調和するよう作庭した。

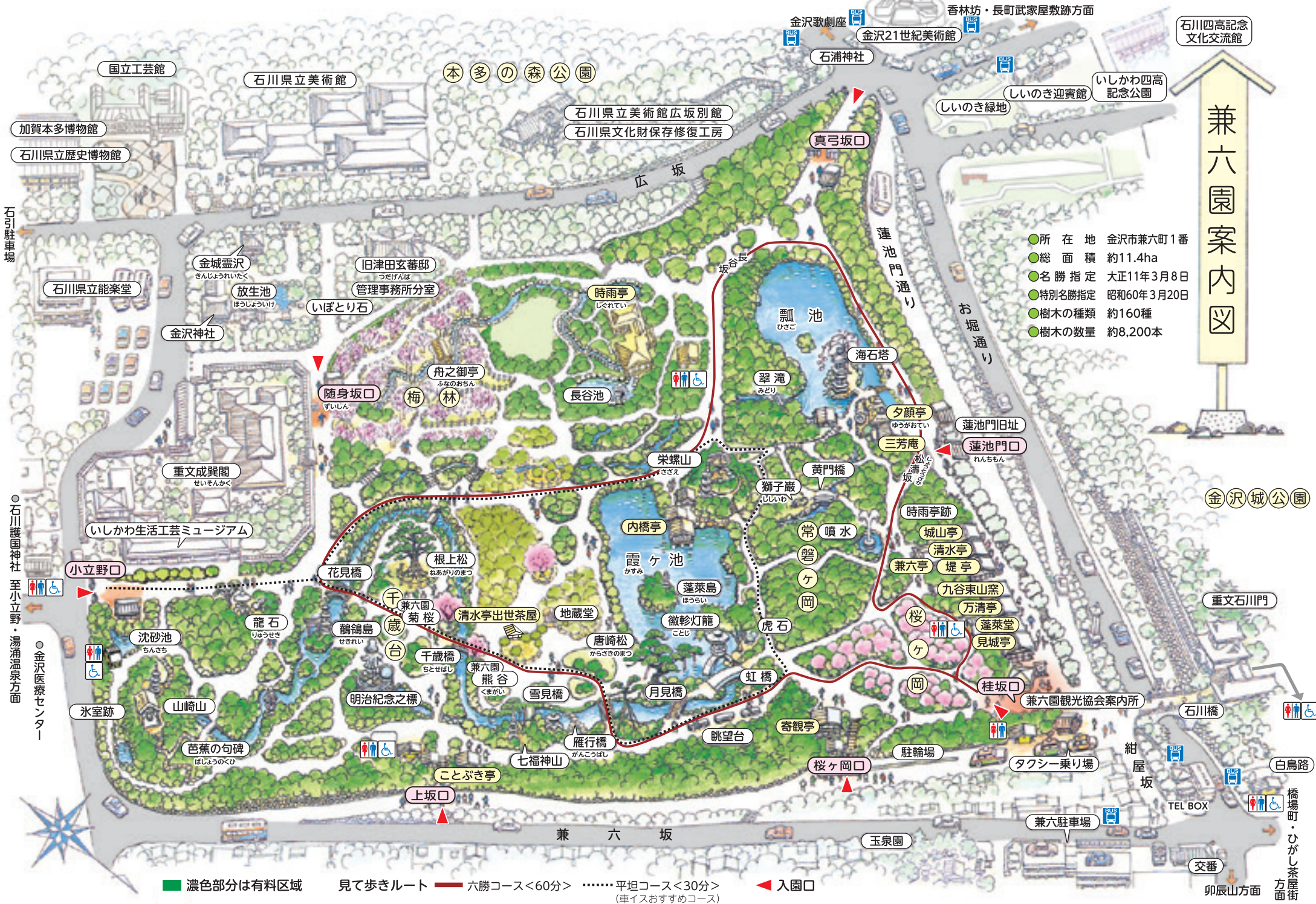
こうして、今にみる雄大な回遊式庭園の基本的な構図はできあがった。

廃藩後、1874（明治7）年5月7日、兼六園は一般開放された。1922（大正11）年3月8日に「史跡名勝天然記念物保存法」の規定により、名勝、の指定を受けた兼六園は1950（昭和25）年、現「文化財保護法」により、改めて名勝、の指定を受けた。

さらに、1985（昭和60）年3月20日、特別名勝、となった。

兼六園案内図

- 所在地 金沢市兼六町1番
- 総面積 約11.4ha
- 名勝指定 大正11年3月8日
- 特別名勝指定 昭和60年3月20日
- 樹木の種類 約160種
- 樹木の数量 約8,200本



開園時間：3月1日～10月15日 7：00～18：00  
 （年中無休）10月16日～2月末日 8：00～17：00  
 入園料：大人320円（18歳以上） 団体：大人250円  
 小人100円（6歳～17歳）（30名以上） 小人 80円

濃色部分は有料区域 見て歩きルート 六勝コース<60分> .....平坦コース<30分> 入園口

石引駐車場

石川護国神社 至小立野・湯涌温泉方面



卯辰山方面 橋場町・ひがし茶屋街方面